

■ 学校教育目標

- ① 高い進学目標を掲げ、一般入試に対応できる学力を身につけながら、個に応じた進路実現ができる学校を目指す。
- ② 学習活動と課外活動をともに重視した高校生活と、それを支える基本的な生活習慣と豊かな人間性の確立を目指す。
(文武両道と生活指導の充実)
- ③ 地域との交流・連携事業を積極的に推進し、地域と協働する高校を目指す。

■ 長期的教育目標

- ① 豊かな人間性を養い、知・徳・体の調和のとれた成長と主体的に社会に参画できる生徒の育成を目指す。
- ② 自主・自発的な学習態度を育成し、学力の充実とともに高い進路目標の実現を目指す。
- ③ 特別活動を充実し、文武両道による心身の練磨を目指す。
- ④ 地域に開かれ、地域と連携しながら、地域から愛され信頼される学校を目指す。

■ 本年度の重点目標

A:十分 B:おおむねよい C:不十分

- ① 生徒一人一人の個性と能力を伸ばし、主体的かつ協働的に価値を創造できる、自立した人間を育てる。(キャリア教育)

評価	B	I	授業・家庭学習を大切にさせ、基礎的な学力の充実・発展を図ることができたか。
	B	II	主体的に自己決定ができる力を養い、自己の進路目標の明確化と進路実現を図れるよう指導できたか。
	A	III	公共心を育て、思いやりと責任のある行動を大切にさせることができたか。

- ② いじめや体罰のない安心安全な学校づくりに努める。

評価	A	I	個人面接指導やアンケートを活用し、継続的に生徒の状況を丁寧に把握することができたか。
	B	II	高い人権感覚を持ち、厳しくも支え合える同僚性を基に、互いを律し、体罰を防ぐことができたか。
	B	III	問題が発生した場合は全職員で情報を共有し、早急な対応にあたることができたか。

- ③ 活力のある学校・特色ある学校づくりに努める。

評価	B	I	生徒の実態を踏まえ、多様な学力や進路に対応できる教材や教授法を研究できたか。
	B	II	生徒の自主活動を積極的に支援し、適切な助言・指導を行うことができたか。

- ④ 家庭・地域との連携を図るとともに開かれた学校づくりに努める。

評価	A	I	生徒が企画する地域連携事業を支援することができたか。
	A	II	実践した教育活動の報告を通して、学校評議員の学校関係者評価や外部評価を受けたか。
	A	III	保護者や地域住民を対象とした公開授業を積極的に実施したか。
	A	IV	協力依頼のある地域連携事業をとおして地域との交流を深めることができたか。
	B	V	家庭との一層の連携とPTA活動の充実を図ることができたか。

① 生徒一人一人の個性と能力を伸ばし、主体的に動ける自立した人間を育てる。(キャリア教育)

I 授業・家庭学習を大切にさせ、基礎的な学力の充実・発展を図ることができたか。

実施した具体的取り組み		成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【3年】4月に学習実態調査を実施。その結果をもとに、各生徒へ学力の充実と発展を図らせた。	時間の経過とともに、進路に対する意識が向上し、前向きな姿勢が見られた。	A
○	【2年】SHRで漢字・英単語の小テストを実施した。定期考査前に学習実態調査を実施した。	漢字と英単語では、わずかながら基礎学力が向上した。生徒の考査前学習時間にわずかながら増加傾向が見られた。来年度は生徒の希望進路実現に必要な学力を向上させたい。	B
○	【1年】SHRで英・数・国ドリルを実施した。	各教科の重要な項目を確認させることができた。	B
○	【地公】電子黒板のスクリーンに映し出し、視覚的にとらえられるようにした。	ICT活用を更に充実させることでわかりやすさにつながる。	B
○	【保体】体育の授業では、準備を生徒全員が協力して行うようにしてきた。	多くの生徒が協力して取り組むことができた。	B
○	【理科】基礎的な内容を書き込み式の教材を使用し、課題で繰り返し出題することで定着をはかった。また、自作課題の内容を生徒の実態に合わせて変更した。	多くの生徒が教材および課題に取り組んだ。大学入試共通テストを見据えて、考える力の基礎をつける方法を検討したい。	B
○	【進路】オープンキャンパスや進学説明会、企業勉強会等への参加を積極的に促した。	分野別の進路ガイダンス等の校内行事を3年間見通す必要がある。	B
○	【全体】	授業で学んだことがらを定着発展させるため、家庭学習を中心とした学習に生徒が取り組む工夫が必要である。	B

II 主体的に自己決定ができる力を養い、自己の進路目標の明確化と進路実現を図れるよう指導できたか。

実施した具体的取り組み		成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【地公】進学補習については生徒のニーズに答えるよう行った。	センター試験で90%程度の得点を得ることができた生徒もいた。来年度も同様の方針で行いたい。	B
○	【2年】進路希望調査と面談により指導した。オープンキャンパスや就職セミナーへの参加を呼び掛けた。	参加した生徒は進路への意識が高まった。来年度は希望進路の実現のために何をしなければならぬのかを生徒が把握できるよう指導したい。	B
○	【1年】総合的な探究の時間において、生徒自身が、企業、施設への訪問、インタビューを企画・実施した。	どのような企業、仕事があるのかについて、興味関心を喚起し、インタビューのアポイントメントを取る等、社会との関わりを体験させることができた。	B
○	【3年】LHRで各種の進路教材を活用した。	進路目標の明確化には有効だった。	B
○	【全体】	おおむね良いが、進学で最後まで頑張り切る意志の確立を指導したいものである。	B

III 公共心を育て、思いやりと責任のある行動を大切にさせることができたか。

実施した具体的取り組み		成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【3年】生徒会活動等、各種行事における指導を行った。	各行事において、職員や生徒の理解・協力を得るための取り組み方法を考えて行動していた。	A
○	【2年】授業やHRでの生活面での指導を継続的に実施した。	その場での適切な指導ができた。全体として落ち着いた学校生活を送ることができた。来年度は社会で必要な公共心と責任感を身に付けさせたい。	B
○	【1年】SHR、LHR、文化祭準備、探究の時間や清掃の時間を通して、皆で責任を分担し、各自が任された仕事をやり遂げることの重要性を、繰り返し指導した。	分担された自分の仕事を遂行できる生徒は多いが、全体を見通し、難しい仕事を買って出るような生徒はまだ少ない。	B
○	【全体】生徒会を中心に地域連携・共同事業を積極的に企画・参加させ、地域に開かれた学校づくりを進めた。	生徒会役員、部活動部員等が意欲的に地域の方々と関わり活動できた。さらに全校生徒が何らかの形で参画できる方向を探っていきたい。	A

② いじめや体罰のない安心安全な学校づくりに努める。

I 個人面接指導やアンケートを活用し、継続的に生徒の状況を丁寧に把握することができたか。

	実施した具体的取り組み	成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【3年】個人面接や保護者懇談会において、生徒の生活状況の把握に努めた。	個々の生徒に応じた生活指導を実施できた。	A
○	【2年】普段の観察・面談や各種調査で生徒状況の把握に努めた。	生徒状況を把握することができた。	B
○	【1年】二者面談、三者面談、いじめアンケート等を実施し、情報の収集を心掛けた。	生徒の状況を把握することができた。	B
○	【生活指導】立ち番、面談やアンケートの実施、日頃の生徒の様子等に注意を払い心配な事業に対しては、事実確認を行うなど迅速に対応できた。	今後はSNS等による問題が心配される。また、この問題は表面化しづらいことから、どのように対応していくか考え、また講話等で周知していきたい。	B
○	【全体】	匿名性を担保した「授業評価」(年2回実施)等から、生徒の思いや願いをくみ取り、学校運営に生かすことができた。	A

II 高い人権感覚を持ち、厳しくも支え合える同僚性を基に、互いを律し、体罰を防ぐことができたか。

	実施した具体的取り組み	成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【2年】修学旅行に関連して人権平和学習に取り組んだ。	沖縄戦や沖縄の現状を学ぶことで、人権や平和の大切さを理解できた。	B
○	【芸術】作品展示、発表をつづじた相互鑑賞	人の作品、発表の良い点を評価する姿勢が見られるので、継続していくことが必要。	A
○	【全体】	様々な単位(学年会、係など)での職員間の支え合いをしっかりと強くしてほしい。	B

III 問題が発生した場合は全職員で情報を共有し、早急な対応にあたることができたか。

	実施した具体的取り組み	成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【2年】問題について学年全体で共有し、係・担任を中心に指導した。	適切な指導ができた。	B
○	【生活指導】問題発生時には、事実確認等の対応を迅速にするとともに、知り得た情報を全職員で共有し、問題に対応できた。一斉メール等の活用で不審者情報の提供により生徒への注意喚起ができた。	日頃の職員の呼びかけ等の効果もあり、問題行動の件数も減少したが、職員の対応が統一されていない場面が見られた。生徒が安全に高校生活を送れるようさらに情報発信をしていきたい。	C
○	【全体】	生活指導係を中心に、何かの事案が発生した時には適切に対応できた。各事案に対して、全職員で対応すべきなのか、学年あるいは関係する係で対応すべきなのかについては、さらに検討すべき課題であるとする。	B

③ 活力のある学校・特色ある学校づくりに努める。

I 生徒の実態を踏まえ、多様な学力や進路に対応できる教材や教授法を研究できたか。

実施した具体的取り組み		成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【地公】ICTを活用し、生徒が前向きに学習できるよう展開させた。	ビジュアル教材の充実が不可欠。	B
○	【理科】3年生では進学補習、2年生では夏季休業中や定期テスト前の向陽館土曜講座補習を実施し、多様な進路へ対応できるよう取り組んだ。	基礎的な内容の定着がある程度見られた。考察力や発想力を向上させるために演習量を増やすなどの対応を検討したい。	B
○	【3年】進学補習について、進路の系統別の実施した。	看護希望の生徒に対して特に有効であった。	B
○	【2年】夏季休業や考査前向陽館土曜講座で希望者補習を開講した。	参加者の学習意識は高まった。普段の家庭学習の意欲的な取り組みにつなげていきたい。	B
○	【1年】夏期休業やテスト前の放課後に、希望者補習を実施した。	意欲的な生徒の基礎学力を向上させることはできた。	B
○	【全体】	学校全体として探究的な学びに向かう雰囲気を作ってほしい。	B

II 生徒の自主活動を積極的に支援し、適切な助言・指導を行うことができたか。

実施した具体的取り組み		成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【2年】HR等で生徒会活動への参加や役員・向陽祭係長への立候補を呼びかけた。	秋より新執行部が発足し、百人一首大会や3年生を送る会などの行事を企画している。来年度は最上級生としての取り組みを指導・助言したい。	B
○	【1年】HRで生徒自治会への参加、文化祭各係への立候補を呼びかけた。	生徒自治会委員長に1年生ながら当選する生徒が見られた。	B
○	【全体】	部活動指導については、部活動とともに勉強にも取り組むようにぜひ指導してほしい。	B

④ 家庭・地域との連携を図るとともに開かれた学校づくりに努める。

I 生徒が企画する地域連携事業を支援することができたか。

実施した具体的取り組み		成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【生徒会】向陽祭や「向陽生と遊ぼう」等、生徒が考えたアイデアを出来るだけ尊重し、必要最低限の助言を行った。また、問題が起こった時にすぐに手を出すのではなく、生徒たちが自ら解決できるよう支援した。	例年行っている地域連携事業であるが、前年と同じ内容にならないように工夫して、より良いものを作っていきたい。	A
○	【全体】地域の方々からの要請や紹介があると、積極的に参加するよう声をかけてきた。またそこの姿をHP等で紹介した。	さらに継続、発展させたい。	A

II 実践した教育活動の報告を通して、学校評議員の学校関係者評価や外部評価を受けたか。

実施した具体的取り組み		成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【教務】学校評議員会等での各事業の報告、および、各事業で新聞・LCV等のメディアに取材・報道の依頼を行った。	報告や各メディアの報道で活動を広く知ってもらえたと思う。	A
○	【全体】		A

III 保護者や地域住民を対象とした公開授業を積極的に実施したか。

実施した具体的取り組み		成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【教務】4月のPTA総会の日程に合わせ、保護者・地域住民対象の授業参観・公開授業を行った。	新入生の保護者を中心に参加をいただいた。	B
○	【教務】8月の中学生体験入学の日程に合わせ、地域住民へも授業公開を実施した。	多くの中学生・保護者の方に参加し、向陽高校の教育活動を理解してもらえる機会となった。	B
○	【全体】	企画した事業について、通知・HP等で呼びかけを積極的に行った。しかし保護者の参加については、さらに拡大する余地はあると思われる。PTA会報や地域の広報等を通して参加を促したい。	A

IV 協力依頼のある地域連携事業をとおして地域との交流を深めることができたか。

実施した具体的取り組み		成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【教務】体験入学に参加できなかった生徒向けに、10月に学校見学会を行った。	体験入学に引き続き参加した生徒も多く、より多くの中学生に学校を知ってもらう機会となった。	A
○	【教務】向陽坂通信の発行により、地元(諏訪地区)の中学校へ情報を発信した。	中学生の進路選択の参考にしてもらえたと思う。	B
○	【教頭/教務】本校のHPにWEB日記を開設し、日々の生徒の様子を発信。	通信や公開授業だけでは伝えることができない日々の活動を紹介できたと考える。	A
○	【芸術】町の活動(バスデザイン)への協力、町の成人式激励書道、町の3保育所での園児との交流	継続していきたい	A
○	【生徒会】三角八丁のイベント補助やハロウィンパレードの先導、ガーデンプロジェクト、イルミネーション等で地元の子どもたちや役場の方々、参加して下さった地域の方々との交流を深めた。	地域の方々から支えられていることを常に意識し、しっかりとした態度・言動をしていくことを心掛けていけるとよい。	A
○	【全体】	地域に開かれた学校づくりの方向とも合致するものであり、学校運営の重点にも掲げていることなので、さらに継続発展していきたい。	A

V 家庭との一層の連携とPTA活動の充実を図ることができたか。

実施した具体的取り組み		成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【2年】学年通信、進路通信などを発行し、保護者への情報提供を実施した。	情報配信システムを活用し、重要な連絡が保護者に確実に伝わるよう工夫した。	B
	【PTA】年間計画に基づき、各家庭に通知して、参加協力を募った。PTA会報・ソフトバレーボール大会・進路講演会以外は、例年通りに事業を実施できた。	PTA総会や地区懇談会はほぼ例年通りの参加であった。行事計画にあたって、他の行事との日程調整を行いながら、各事業の参加者数を増やす工夫を考えていきたい。	B
○	【全体】	家庭と連携する体制・姿勢はよいと思う。しかし、今年度は天候の関係もあり、実施できなかった事業があった。来年度以降、さらにPTA役員と校内の係とで連絡を密にし、PTA活動を充実したものにしていきたい。	B